

「介護の新3K」の決定について

(福祉長寿局介護保険課)

1 概要

これまで、「きつい、汚い、給料が安い」などいわゆる3K職場として後ろ向きな評価が流布している介護現場のイメージを、現場で活躍している職員からの声として、県民が前向きなイメージで捉えることができるよう、「介護の新3K」を決定し、あらゆる場面を利用して周知していく。

2 介護の新3K

- ・ 感謝を分かち合える仕事
- ・ 心がつながる仕事
- ・ 感動できる仕事

3 経緯

(1) 関係団体への説明

タウンミーティング等の機会を活用し、関係団体に対して新3Kの周知の目的等を説明し、意見を伺った。

新3Kの普及の趣旨について賛同が得られ、以下の意見を頂いた。

- ・ 単に悪いイメージの払拭をするだけでなく、「この国を守っている。」「この社会を助けている。」というような人生観の発掘につなげる。

(2) 介護の未来ナビゲーターとの意見交換

若年層に向けて介護の仕事の魅力を伝えるナビゲーターに対して、新3K(案)を提示し、現場で働く職員としての捉え方や感想について意見を伺い、上記2のとおり決定した。

提示案	ナビゲーターの主な意見
価値ある仕事	<ul style="list-style-type: none"> ・ 利用者の最期に寄り添えるのは、他の仕事にはない「価値」である。 ・ どの仕事にも価値はあり、介護に限らない。
感謝される仕事	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日々、「ありがとう」と言ってもらっている。 ・ 「感謝される」だと一方的な印象を覚える。「感謝する」仕事でもある。
感動できる仕事	<ul style="list-style-type: none"> ・ 働いていて感動したエピソードがたくさんある。 ・ 介護の仕事を知らない人にとって「感動」はイメージしづらい。

4 周知方法

- ・ 介護の未来ナビゲーターが行う学校訪問等において、介護の仕事について説明する場面で積極的に活用し、周知を図る。
- ・ 県ホームページをはじめ、あらゆる広報手段を活用し、機会あるごとに新3Kを掲載・周知する。
- ・ 関係団体・市町介護人材確保担当課等に対して、新3Kの普及について協力を要請する。